



味わう 発見する 学ぶ

ほっこり一服、和のこころ。



石川の茶会ガイド2017



おでかけ前にチェック！ 基本の作法・マナー

茶会に出席したときに知っておきたいマナーを紹介します。
相手が礼をしたら、こちらもしっかり返すことを忘れずに。

その1 準備編 茶会への参加が決まったら、服装と持ち物をチェック。
判断に迷う場合は経験者に聞いてみましょう。

服装

洋服で出席しても構いません

茶席では多くの方が和服をまといます。しかし、茶道の経験がない人でも参加するような茶会では、洋服のまま気軽に参加してみましょう。ただし、スカートは膝丈までであるのが望ましく、靴下は必ず履くようにしましょう。洋服のまま参加してもいいかどうか、事前に主催者に聞いてみるのも手です。なお、茶席に着くときは、腕時計や指輪などをあらかじめ外しておくのがマナーです。



洋服の場合、茶会にふさわしい服装で

持ち物

扇子、懐紙、楊枝を持参

茶会には扇子、懐紙、楊枝の3点を持っていくといいでしょう。扇子は主にあいさつの際に膝前などに置いて用います。懐紙はお菓子の“取り皿”代わりに使い、楊枝でお菓子をいただきます。



茶の湯はやわかり 茶の湯について、よくある質問にお答えします。

茶道のルーツについて教えてください

お茶を飲む習慣は中国からもたらされました。日本人が飲み始めたのは奈良時代ごろとされており、鎌倉時代に入ると薬として飲むのが主流になりました。
室町時代に「わび茶」の基礎を築いた村田珠光、さらに発展させた武野紹鴎を経て、安土桃山時代に茶道を大成させたのが千利休です。茶道は日本の精神文化の要となり、今も受け継がれています。

多くの流派がありますが、違いは何ですか？

流派によって作法や道具に違いが見られますが、目指すところは変わりません。茶道にまつわる格言や心得を説いた言葉はいろいろありますが、茶道そのものを一言で表すと、「一服のお茶を通じて、亭主(もてなす側)と客(もてなされる側)が心を通じ合わせる」ということになるでしょうか。
亭主は「もてなしの心」を所作やしづらいつらいつらを通じて表現しているのです。

作法を身につけるのは難しいのでは？

茶道には多くの作法があるため、確かに短期間では覚えきれません。ただ、それぞれの所作には必ず意味があり、平たく言えば亭主と客が心を通じ合わせるための「動き」を端的に表現しているのです。
また、茶道といえば「作法」だけに目が向きがちですが、それだけを学ぶものではありません。得られるものは人それぞれ。「お茶を楽しむ」という本来の目的を忘れず、気軽に試してみてください。

